

札幌豊平教会 伝道開始 115 周年/教会建設 61 周年記念講演会



フードバンクの立ち上げ そこから見える人・社会

お話：片岡有喜子さん

NPO フードバンク・イコロさっぽろ代表

予約不要・視聴無料・どなたも歓迎！

ZOOM 視聴環境のある方は、ご自宅などで御参加下さい。

zoom ミーティング ID: 875 3667 5218 パスコード: 454595

* ご不明の際には、札幌豊平教会にお問い合わせください。

フードバンクとは

まだ食べられるにも関わらず、様々な理由で廃棄される食品があります。そういった食品を企業や生産者の方から無償で寄贈してもらうことで、困窮している世帯や各福祉施設(児童養護施設、障害者施設、高齢者施設など)に無償で提供したり、こども食堂や炊き出しに使用する活動です。

アメリカで1960年代に始まってから、世界に広がっている活動です。かつては日本ではおすそ分け文化やご近所づきあいがありました。日本のコミュニティの崩壊が叫ばれ始めた2002年、日本で初めてのフードバンクがスタートしました。今では80を超える団体がフードバンクを運営しています。

**2021年7月4日
(日) 12:00~13:00**

主催・会場 日本キリスト教会札幌豊平教会

札幌市豊平区豊平6条3丁目5-15

(地下鉄東豊線「学園前」駅1番出口より徒歩5分)

電話 011-811-6838

電子メール toyohirachurch@jcom.home.ne.jp

ホームページ <https://www.ccjtoyohira.com/>



代表の想い

フードバンクイコロさっぽろ代表の片岡有喜子と申します。
食品ロスと貧困対策に対する私の想いを少しお話いたします。

今の日本はありがたいことに、物がたくさん溢れています。
同じリンゴでも、甘い味からさっぱりした味、歯ごたえに至るまで、色々な種類を選ぶことができます。一方で、その消費活動で余剰した食品や、生産過程で形状の整わないもの、ラベルの表示ミスなどによる食品のロスが生じています。様々な事情で売られなくなった商品については、流通システムが整えば整うほど、残念なことに「棄てたほうが、コストがかからない」というジレンマもはらんでいます。
でも、これを20年も30年も続けていけるのだろうか？

人口が少なくなり、生産者や消費者が減る今後の日本は、自分の子どもたちが引き継ぐ時代でもあります。消費者が商品を選ぶ楽しさ・自由を残したまま、行き場をなくした商品にもう一度光をあて、人の口に入る機会を作り出したい。更に、その機会を喜んでくれる方々に運びたい。そんな想いでフードバンクを設立いたしました。フードバンクが商品の流通の一部に組み込まれることが当たり前になるよう、そして、誰しものが、生きている間に何が起きても空腹にはならない社会（食のセーフティネットの確立）を実現できるよう活動してまいります。

少しでも、活動が気になる！いいな！とっていただけた方は、是非活動にご参加ください。参加の形としては、仕分け・配送のボランティアや食品寄贈、お金での寄付という形がございますが、初めの一步はこんなふうにご友人にお話ししていただくことから始めてみませんか？「こんな活動があるんだよ！フードバンクって知ってる？」

皆さんの活動へのご参加、心よりお待ちしております！

札幌豊平教会では毎年5月に、ここ札幌・豊平の地に伝道が開始されたこと、この地に教会が建てられたことを覚え、「地域の課題を、地域の方々と共に学び、共に考える」ための講演会を開いております。

（今年はコロナ感染症の影響から、実施日と方法を再考して、7月4日実施を判断いたしました）
講師である片岡さんが主宰する「フードバンクイコロさっぽろ」さんは、当教会が取り組む「とよひら食堂」がお世話になるフードバンクさん一つです。食の問題は、個々の家族や地域の大切な課題、また地球規模の重要な課題です。「食」に携わる片岡さんのお話に耳を傾けたいと存じます。

（札幌豊平教会牧師 稲生義裕）